allcinema

原子怪獣と裸女（1956）

THE DAY THE WORLD ENDED

メディア　映画
ジャンル　ＳＦ
製作国　アメリカ
色彩　B&W
時間　82分
初公開日　1962/10/11
公開情報　大蔵
リバイバル　1994/［コムストック］

【解説】

　コーマン監督らしい奇妙なニヒリズム漂うＢ級ＳＦ。単に低予算の侘しさがそう感じさせるのかも知れないが、舞台は一応、最終戦争後のアメリカ。奇跡的に生き残った男女７人が、狭められた環境で、放射能に冒された元人間らしき異形者に次々と襲撃される。なぜ邦題に「裸女」とあるかと言えば、７人が暮らす小屋の近くの滝は汚染されておらず、そこで美女の水浴シーンというお約束的お色気シーンが用意されているから。ともかく、砂漠と特殊メイクとグラマーさえいれば映画になるという割り切りが、昔も今もこのジャンルを支えているのだ。水に極端に弱いという怪物の設定は明らかに、わが「ウルトラマン」のジャミラに影響を与えた様だ。「原子怪人の復讐」は本作のリメイクにあたる。９４年に「ＳＦ・特撮・モンスター・シネマ秘蔵版大全」と銘打たれて劇場公開。

【クレジット】

監督	ロジャー・コーマン	Roger Corman
製作	ロジャー・コーマン	Roger Corman
製作総指揮	アレックス・ゴードン	Alex Gordon
	ジェームズ・Ｈ・ニコルソン	James H. Nicholson
脚本	ルー・ラソフ	Lou Rusoff
撮影	ジャック・フィーンデル	
編集	ロナルド・シンクレア	Ronald Sinclair
音楽	ロナルド・スタイン	Ronald Stein
出演	リチャード・デニング	Richard Denning
	アデル・ジャーゲンス	Adele Jergens
	ロリ・ネルソン	Lori Nelson
	タッチ・コナーズ	Touch Conners
	ポール・バーチ	Paul Birch
	ジョナサン・ヘイズ	Jonathan Haze
	レイモンド・ハットン	Raymond Hatton
	ポール・デュボフ	Paul Dubov
	ポール・ブレイズデル	Paul Blaisdell

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.